

黒豆の極小粒品種「黒千石」の安定生産をねらうには

【1 「黒千石」はこんな品種】

(1) 品種の履歴

1941年以前に北海道内より収集され、岩手県には1998年頃に実需関係者の主導によって導入されたもので、県外大手納豆業者との契約栽培など、特色ある製品の原料として生産されています。



図 「黒千石」製品例（納豆）

(2) 品種の特徴

ア 成熟期は「コスズ」並～やや早く、主茎長は「コスズ」の約半分と短く、最下着莢節位高もかなり低いです。

イ 子実重は「コスズ」より1割以上、「スズカリ」より2割以上少ないです。

ウ 百粒重は「コスズ」よりやや重く、6.1mm以上の粒径分布が「コスズ」より多いです。

品種	年次 (年)	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	主茎長 (cm)	着莢高 (cm)	子実重 (kg/a)	同左比 (%)	百粒重 (g)	種皮色	子葉色	子実の粒径分布(%)				
											4.2mm 未満	4.2~ 4.9mm	4.9~ 5.5mm	5.5~ 6.1mm	6.1mm 以上
黒千石	H17	7.31	10.11	34	5.2	30.1	93	11.4	-	-	0.4	1.6	20.5	58.3	19.1
	H18	8.2	10.14	38	4.0	24.2	81	11.8	-	-	0.3	1.9	16.5	64.8	16.5
	平均	8.1	10.13	36	4.6	27.2	87	11.6	黒	緑	0.4	1.8	18.5	61.6	17.8
コスズ	H17	8.7	10.14	86	10.4	32.4	(100)	10.5	-	-	0.1	1.0	34.9	63.6	0.5
	H18	8.7	10.13	57	6.5	30.0	(100)	10.3	-	-	0.1	1.3	30.3	66.0	2.3
	平均	8.7	10.14	72	8.5	31.2	(100)	10.4	黄白	黄	0.1	1.2	32.6	64.8	1.4
スズカリ	H17	7.31	10.10	58	9.9	35.8	110	28.1	-	-	-	-	-	-	-
	H18	7.31	10.11	44	7.0	34.9	116	29.7	-	-	-	-	-	-	-
	平均	7.31	10.11	51	8.5	35.4	113	28.9	黄白	黄	-	-	-	-	-

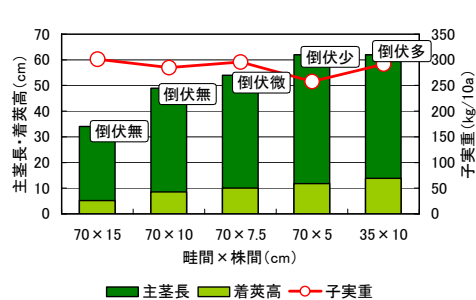
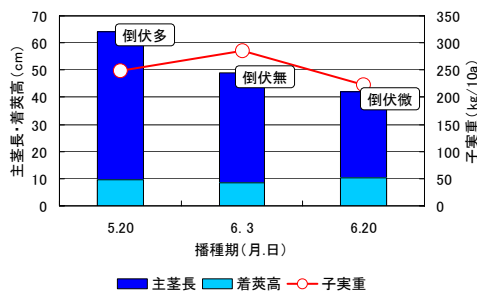
注) 着莢高は最下着莢節位高の略。子実重比は年次別の「コスズ」対比。

(3) 栽培のポイント

ア 県南部における播種適期は6月上旬と考えられます。それより早く播種すると倒伏が多く、遅いと主茎長がさらに短くなり子実重も減少します。

イ 栽植様式は畦間70cm×株間7.5~5cm（アール当たり約2~3千本）が適します。同様の密度でも畦間35cm×株間10cmの狭畦栽培は倒伏が多くなります。

ウ 生育量と収量構成要素の目安は、主茎長50cm、最下着莢節位高8cm、倒伏「少」程度（培土1回実施の場合）、m²当たり総節数650節、m²当たり稔実莢数1,600莢、百粒重10~11gです。



【2 もう一工夫で安定生産に挑戦】

(1) 小畦立て播種栽培

小畦立て播種栽培は、本品種の実施事例が少ないですが、水田での湿害回避による生育増進が期待できることから、積極的に取り入れたい技術です。

(2) コンバインの刈刃交換

コンバインの刈刃を狭ピッチのもの（中央農業総合研究センターで開発）に交換することにより、収穫ロスが低減できることが確認されています。現在、製造業者による受注生産が可能となっていますが、市販化については耐久性の改善と併せて検討中です。